

概 要

国・都・区の施策

- 幼稚園教育要領
- TOKYO ACTIVE PLAN for students
- 豊島区教育ビジョン2019
- 豊島区スポーツ推進計画
- 豊島区アプローチ・スタートカリキュラム【改訂版】

園の状況

- 外国籍を含む特別な配慮を要する幼児の増加
- 共働きや介護などで、長時間の預かり保育を必要とする家庭の増加
- 幼児教育の質の向上を求める保護者の存在
- 多くの栽培物を育てている土の園庭と大明グラウンドが活用できる環境

幼児の実態

- 様々なことに興味をもち、自ら関わって遊ぶ姿が見られる。
- 体を動かすことが好きな幼児が多い。
- 友達と関わりたい思いがあるものの、関わり方が一方的な姿が見られる。
- 言葉でのやりとりが難しい幼児がいる。
- 思いをくみ取ってくれる教師と遊ぼうとする幼児がいる。

目指す幼児像

- 様々なことに興味をもち、自ら環境に関わり、自分のやりたい遊びにじっくりと取り組む幼児。
- 教師や友達、学級と関わり、目的に向かって繰り返し取り組む幼児。
- 目的に向かって心と体を十分に動かせ、体を動かし多様な動きを楽しむ幼児。

研究の仮説

- 夢中になって遊べるような援助や環境構成を教師がすることで、幼児が自分のやりたい遊びにじっくりと取り組んだり、多様な人との関わりを支えたりすることにつながるのではないかと。
- 多様な人と関わり合いながら夢中になって遊ぶことで、健康で活力に満ちた生活を送るための、素地を養えるのではないかと。

研究の手だて

令和5・6年度

手だて①
事例検討

夢中になって遊ぶ幼児の育成を目指して、「**自分の夢中**」と「**人との関わり**」という視点で、**人との関わり**を支援する援助と環境について探り、指導に生かす。

手だて②
指導のPDCAサイクル

「**自分の夢中**」と「**人との関わり**」という視点で、**人との関わり**を支援する援助と環境について探り、指導に生かす。

令和6・7年度

手だて③
事例検討

体を動かす遊び場面で、人との関わりについて探り、指導に生かす。

手だて④
多様な動きを引き出す

見直した指導計画を元に、多様な動きを自然に引き出せるように固定遊具を工夫する。

研究の進め方

保育記録から事例を作成する

保育記録から期ごとに事例を作成した。事例の中から、「**自分の夢中**」と「**人との関わり**」を考察の視点とし、幼児の姿を支えた援助と環境について分析した。

事例から指導計画を見直し、指導に生かす

事例から、多様な人との関わりを支える援助と環境について探り、期ごとに指導計画を見直した。既存の指導計画の中の、ねらい（遊びへの取り組み、人とのかかわり）について検討し、指導に生かした。

成果と課題

成 果

- “自分が夢中になって遊ぶ場面”や“人と関わる中で夢中になって遊ぶ場面”を行き来できるように援助していくことで、幼児の人と関わる力が育まれていくことが分かった。
- 教師が日々の記録を取り、幼児の姿を丁寧に読み取ることで、発達や時期に応じた援助と環境を用意することができ、幼児の夢中になって遊ぶ姿を引き出していけることが分かった。
- 夢中になって遊ぶ姿を分類したものを参照しながら、事例を元に実際の幼児の姿を検討したことで、指導計画を幼児の実態にあったものへ見直し、よりよい援助ができた。
- 日々の記録を取ることで、教師が遊びを長期的で継続的な視点で見えることを意識できるようになった。

課 題

- 普段の園生活の中や遊びによっては経験しにくい動きがあり、それらを経験できるような環境構成が必要であった。
- 意図的に経験させたい動きや、獲得させたい動きを十分に味わわせることが不足していた。

参考文献 ● 江東区立元加賀幼稚園 令和2・3・4年度江東区教育委員会研究協力園 「友達と遊ぶことを楽しむ～協同性を育むための環境の構成と教師の援助～」
● 中央区立明石幼稚園 令和2・3・4年度中央区教育委員会研究奨励園 「夢中になって遊ぶ幼児を目指して～園内環境を活かした場の工夫～」

「小学校への確かな接続をめざして」

池袋幼稚園経営支援員 飯島 光正

「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」が小学校教育への接続の基盤になります。その姿を支えるものが幼児期の「総合的な遊び」です。「夢中になって遊ぶ幼児の姿」から「学びの芽生え」が生まれ、小学校以降の教科学習を支える「確かな学力」につながります。また、人との関わりを通して「夢中になって遊ぶ」ことから、幼児が活動の基盤となる感情を豊かにし、「自分らしさ」を形成させ、「豊かな人間性」を育みます。

私たち教職員は小学校への円滑な接続を果たすためには、遊びの中で幼児が何を学んでいるかをしっかりおさえ、幼児教育における遊びが小学校教育の学びにつながっていることを理解し、発信する必要があります。そのために、「遊びは学び」であることの重要性を示し、小学校教育への円滑な接続につながる「幼・小交流活動」をより推進していく覚悟です。

ご指導いただいた講師の先生

共立女子大学家政学部児童学科 教授 田代 幸代 様
前豊島区教育委員会庶務課幼児教育推進係長 新井 裕 様
前豊島区立池袋幼稚園園長 小林 幾子 様

研究に携わった教職員

園長職務代理者	山口 正男	校務支援員	佐々木 俊江	特別支援補助	鈴木 牧子
経営支援員	飯島 光正	幼稚園運営補助員	外崎 恵子	特別支援補助	矢島 つばめ
経営支援員	大竹 ヨシ子	預かり保育指導員	新井 弘美	預かり保育補助	渡邊 清美
主任教諭	栗原 佳鈴	特別支援指導員	田中 雅美	預かり保育補助	友川 由美
教諭	山部 昌史	スクールカウンセラー	斎藤 敢		

令和6・7年度 東京都教育委員会体育健康教育推進校(1年次)
令和5・6・7年度 豊島区教育委員会研究開発指定校(2年次)

【研究主題】

夢中になって遊ぶ幼児の育成を目指して
～多様な人とのかかわりを支える援助と環境～

はじめに

豊島区立池袋幼稚園園長職務代理者 山口 正男

毎朝、大きな声で元気に挨拶する園児たち。満面の笑顔には、今日一日友達と仲良く過ごしたいという期待感が込められています。私たち教職員一同は、その期待に応えるべく「夢中になって遊ぶ幼児の育成」を目指し、日々の保育活動に取り組んでいます。

幼児教育の基本は遊びです。遊びを通して、「自立心」「協同性」「規範意識の芽生えから生まれる道徳性」「社会生活との関わり」などを習得します。

私たち教職員は幼児が多様な人との関わりをもつことを生きる力の基礎に位置づけ、本園の教育活動の中で関わり合いに注力し、保育実践から研究を深めてきました。本年は研究の中間点として成果と課題を整理し、後半の研究につなげていきたいと思います。

この研究を進めるにあたり、丁寧なご指導・ご助言をいただきました共立女子大学 教授 田代幸代様、前池袋幼稚園園長 小林幾子様、このような貴重な機会を与えてくださった東京都教育委員会、豊島区教育委員会をはじめ関係する多くの皆様に心から感謝申し上げます。



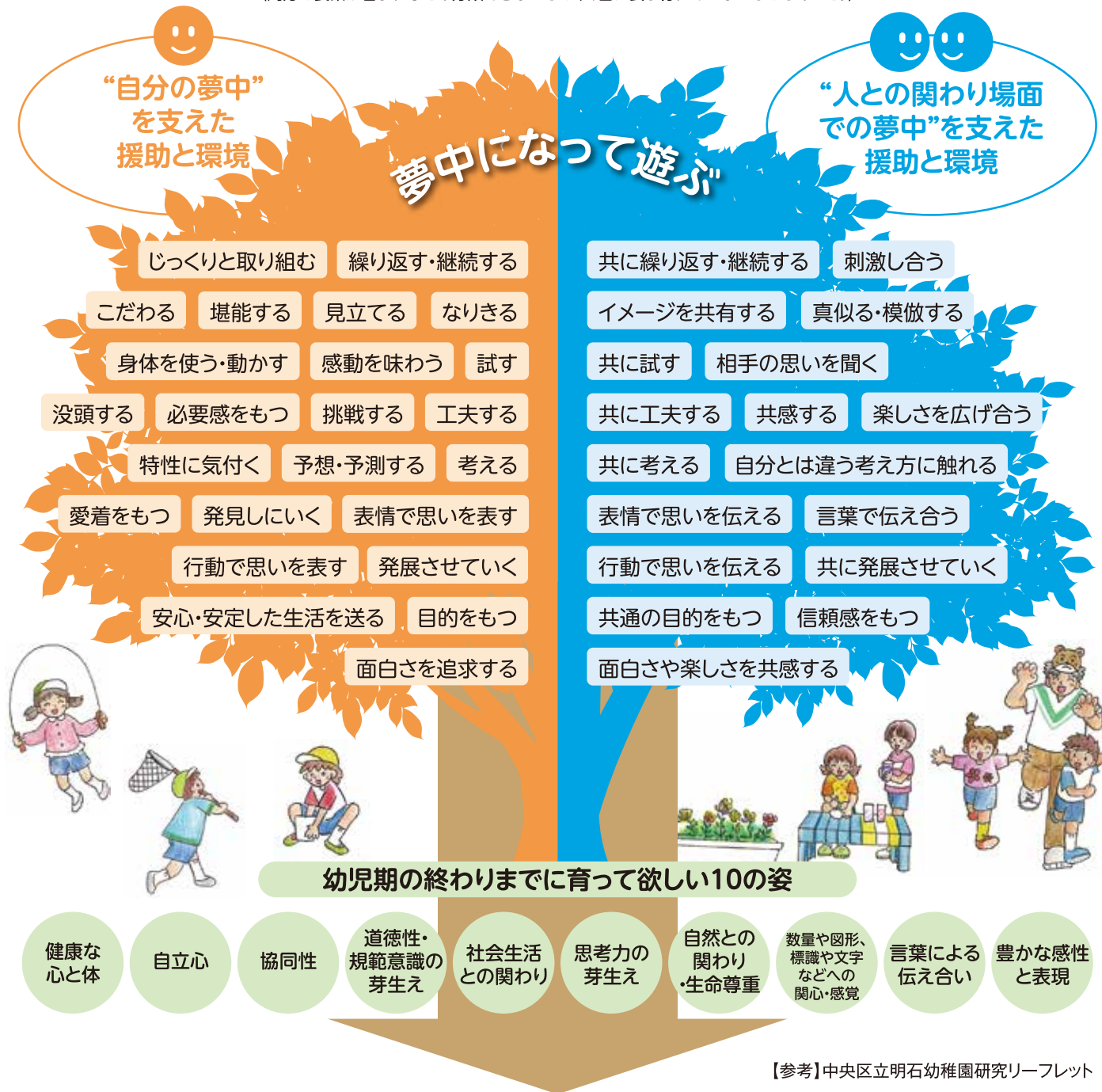
令和6年11月8日(金)
豊島区立池袋幼稚園

研究

【研究主題】

夢中になって遊ぶ幼児の育成を目指して
～多様な人とのかかわりを支える援助と環境～

夢中になって遊ぶことは、多様な経験を生み出し、生きる力の基礎を育むことにつながると考えた。領域「人間関係」や幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿（主に自立心、協同性、道徳性・規範意識の芽生え、社会生活との関わりなど）でも示されているように、遊びの中で人と関わる力が育まれますと捉え、遊びの場面（事例）から人との関わりを支える援助と環境について探ることにした。共通理解するために、「夢中になって遊ぶ幼児の姿」を具体的に出し合い、自分だけで経験できることと人との関わりの中で経験することに分類した。（両方の要素が含まれるため分類できないものや、図に表し切れていないものもあった。）



【参考】中央区立明石幼稚園研究リーフレット

小学校教育

手だて① 事例検討

事例 4歳児4月「電車ごっこ」 教師と関わり、友達の存在に気付く

電車の玩具が大好きなA児。園庭に出て走り始めたので、教師が「電車があるんだよ」と、電車に見立てた段ボールの枠を提示した。A児は「やりたい」と1つ選ぶと身につけて、走り始めた。

教師が白線を1本引くと、A児は「線路にしよう」と線を走り始めた。A児は「2本にして、本物の線路みたいにしたら?」と言い、教師が線を足した。A児は笑顔でくるくると線路を走り始めた。

近くで様子を見ていたが「やらない」と言うB児に、教師が遮断器を提示すると、B児はバーを動かしてみた。教師が線路の片側に遮断器を置き、踏切に見立てた線を引くと、B児は「カンカンカンカン」と言って、遮断機を下げ始めた。教師が手を上げて渡ると、近くにいるC児やD児もやってきて、手を上げて渡った。

B児が「踏切は本当はこうじゃないよ、2個あるんだよ」と言ったので、教師が「じゃあ明日もう1本用意しておくね」と答えると「よろしくね」と笑った。



2本にして、線路にしたら?



カンカンカンカン!

- 同じ場の遊びの中でも、それぞれの幼児の動きが引き出せるような教材として、電車に見立てた段ボール枠や幼児が動かせる踏切を用意し、それぞれのやってみたい動きを引き出していく。
- 安心・安定した生活を送る 表情で思いを表す

- 幼児が言葉で出したイメージを、教師が丁寧に汲み取り、実現させていく。
 - 教師が遊び方のモデルとなったり、一緒に動いたりすることで、興味をもっていた幼児が、参加できるようにする。
- 信頼感をもつ

事例 4歳児12月「テントになったよ」 気の合う友達と一緒に遊ぶことを楽しむ

E児はサッカーゴールを2つ合わせると「テントに見えるね、そうだ、テントにしよう」と話した。F児が興味深そうに近くに来たので、教師が「Eくんがこれをテントにするんだって、一緒に遊ぶ?」と言うと、F児がうなずき、仲間に入ることになった。

教師が瓶ケースを指さして「こういうケースも使っていいんだよ」と言うと、E児は「テレビにしよう」とつぶやき、運んだ。F児はE児のすることを見て、ニコニコしたり、時折「いいね」とつぶやいたりしていた。

G児が遊びに入り、入り口に瓶ケースを積んだ。教師が「これは何?」と尋ねると「これドアにしよう」と言った。それを聞いてE児は「良いよ」と答えた。少しすると、G児が「これ、冷蔵庫に見えるな、やっぱり冷蔵庫ってことにしよう」と言って、皿を置いた。E児は「ああ、いいね」と答え、自分の皿も置いた。教師が「素敵なテントになってる!」と声をかけると、E児は「冷蔵庫もあるんだよ、すごい?」と笑った。



テレビにしよう!



やっぱり冷蔵庫にしよう

- 様々なものに見立てられるような、瓶ケースなどの汎用性のある道具を自分で使えるようにしておく。
- 見立てる

- 興味がある新しい遊びに参加できるように、教師が思いを引き出し、橋渡しをすることが必要な幼児もいる。
 - やりとりをしながら、見立てているもののイメージを引き出していく。
- 相手の思いを聞く

事例 5歳児6月「水族館ごっこ」 友達と思いを伝え合って、遊びを進めていこうとする

教師がペットボトルで作ったペンギンを置いておくと、H児が同じように作り始めた。I児もH児の作り方を真似して作った。数名の幼児が集まり、ペンギン作りをした。J児やK児はL児と同じように作り始めるが、M児は「本物のペンギンみたいに作りたい」と写真や図鑑を見ながら作った。その様子を見て、N児はM児を真似ながら作った。

その後、I児とJ児でペンギンランドを作り始めた。I児が積み木の上を指して「ここを氷の場所にしたらどう?」と提案すると、H児は「じゃあ、氷を作ってくるね」と、水色のカラーガムテープをちぎって、マットの上に撒いた。教師が「これはなに?」と尋ねると、H児が「氷の場所だよ、Iちゃんがアイデアを出して、私が作った」と言い、I児も笑顔でうなずいた。しばらくして、H児が「ペンギンのショーの時間です」と呼びかけ、友達が集まってくると、I児は「お姉さんが通るので、この線よりそっちに座ってください」とお客さんに向かって話した。



本物みたいに作りたい!



ここを氷の場所にしよう!

氷作ってくるね!

- 見本と同じように作ったり、写真や絵を見て自分なりに工夫して作ったりするなど、それぞれのペースで作れる環境を用意しておく。
- 工夫する 試す

- 一緒に遊ぶ友達同士でイメージが共通になるように、場やものが作れる環境を用意し、言葉を引き出せるような言葉かけをしていく。
- 言葉で伝え合う 楽しさを広げ合う

事例 5歳児1月「ドッジボール」 互いの良さを認め合う

大明グラウンドで2チームに分かれドッジボールが始まった。1回戦目は、O児、P児、Q児がいるチームが負けた。メンバーを変えずに2回戦目をする事が決まると、Q児とP児が2人で話し、相手チームに「ちょっと待って!」と伝え、チーム全員を集めて作戦を立て始めた。

2回戦目が始まると、最初にP児が敢えて当たることで外野に出て、内野からパスをもらって挟み撃ちにしようとした。他の幼児も「当てたら戻って来られるから頑張っ!」と声を掛けた。最後にQ児が1人残ると「Qくん、頑張れ!」と外野の子が応援し、Q児もボールを一生懸命に投げる姿が見られた。

2回戦目も負けてしまったが「もう1回同じチームでやりたい!」と言ってそのまま3回戦目を行うことになった。すると、相手チームのR児が「僕たちも作戦立てようよ」と言って友達を集め、作戦を立て始めた。



こういう作戦はどう?

じゃあ、わたしが最初に外野に出るね!



Qくん頑張っ!

応援されて嬉しい!

- 外野が戻って来られるようなルールにし、繰り返し取り組めるようにすることで、自分の力を発揮できるようにする。
- 没頭する 身体を使う・動かす

- チーム意識が芽生え、全員で作戦を考えたり、友達を応援したりできるように、同じチームで繰り返し楽しめるようにする。
- 共通の目的をもつ 共に工夫する

手だて② 指導のPDCAサイクル

	4歳児Ⅰ期(4月～5月下旬)	4歳児Ⅱ期(6月～9月中旬)	4歳児Ⅲ期(9月中旬～10月下旬)	4歳児Ⅳ期(11月～1月下旬)	4歳児Ⅴ期(2月～3月)
ねらい😊	安心して過ごす ○安心して過ごせる居場所や自分のやりたいことを見つけて遊ぶ楽しさを味わう。 ○自分の好きな遊具や場など、興味をもったものに関わって遊ぶ楽しさを味わう。	自分の好きな場、もの、人を見つける ○自分の好きな場を見つけ、遊ぶことを楽しむ。 ○自分が使いたいものや身に付けたいもの、関わりたい人を見つける。 ○自分の思いを動きや言葉で出すことを楽しむ。	自分なりの表現をのびのびと楽しむ ○自分のイメージや思いを動きや言葉でのびのびと表現することを楽しむ。 ○場やものを作ることを通して、自分なりのイメージを出す楽しさを味わう。	自分の興味があることにじっくりと取り組む ○素材を様々なものに見立てて、興味をもったことを自分なりに試し、じっくりと取り組む。 ○友達をしていることを取り入れてみたり、自分なりに工夫したりしようとする。	自分で遊びの場やものを作り、友達と関わることを楽しむ ○自分で作ったものを使ったり、場を準備したりする中で、友達と関わる楽しさを味わう。 ○いつも遊んでいる友達に、自分の思いを聞いてもらえる嬉しさを感じる。
ねらい😊😊	教師と関わり、友達の存在に気付く ○教師と一緒に遊んだり、気持ちを受け止めてもらったりして、嬉しさや親しみを感じる。 ○教師に安心感や信頼感を持ち、友達の存在に気付く。	教師が拠り所となり、同じ場やものを使う友達と部分的に関わる ○教師や友達が使っているものや場に興味をもつ。 ○同じ場にいる友達と部分的に関わって遊ぶことを楽しむ。 ○教師や友達に、動きや言葉で思いを出す。	同じ場にいる友達と大まかなイメージを共有する中で、親しみをもつ ○大まかなイメージの中で、友達と同じものを身に付けたり、同じ場で関わったりして楽しむ。 ○自分の思いを出したり、教師を介して相手にも思いがあることに気付いたりする。	気の合う友達と一緒に遊ぶことを楽しむ ○友達と一緒に場作りなどをする中で、動きや言葉がつながる楽しさを味わう。 ○一緒に遊んでいる友達に、自分の思いを伝えようとする。 ○教師を介して相手の思いを聞こうとしながら、気の合う友達と一緒に遊ぶことを楽しむ。	友達と動きや言葉がつながる楽しさを味わう ○友達と一緒に場作りなどをする中で、動きや言葉がつながる楽しさを味わう。 ○一緒に遊んでいる友達に、自分の思いを伝えようとする。 ○教師を介して相手の思いを聞こうとしながら、気の合う友達と一緒に遊ぶことを楽しむ。
ポイント! 援助・環境	● 幼児の言葉や表情、動きを丁寧に受け止め共感するなど、1人1人と丁寧に関わる。 ● 家庭と同じような遊具を、使いたい時に使えるようにする。	● 拠点となる場を用意したり、友達の存在に気付くような言葉掛けをしたりする。 ● やりたいことが十分に出来る場、教材、時間を保障する。	● 幼児の思いを教師が十分に受け止め、相手に思いや考えが伝わるように、仲立ちする。 ● イメージが近くの友達にも見て伝わるように、場やものを教師も一緒に作る。	● 教師が間に入り、友達に自分の思いを伝え、受け止めてくれた経験ができるようにする。 ● 様々なものに見立てられる素材を提示する。 ● 互いの遊びが見やすい位置に、再構成する。	● 一緒に遊んでいる友達の言葉に気付けるように仲立ちしたり、言葉を引き出したりする。 ● 幼児が生活や遊びを自分たちで進めてみようと思えるような環境を用意する。

	5歳児Ⅰ期(4月～5月中旬)	5歳児Ⅱ期(5月下旬～9月上旬)	5歳児Ⅲ期(9月上旬～10月)	5歳児Ⅳ期(11月～1月中旬)	5歳児Ⅴ期(1月下旬～3月)
ねらい😊	新しい遊具を使って、遊びの場や物を用意しようとする ○新しい遊具に興味をもち、進級の喜びを感じながら、友達と一緒に遊ぶことを楽しむ。 ○先行経験のある遊び(昨年度楽しんでいたもの)をしながら、やりたい遊びを考えていく。	イメージを実現していこうとする ○遊びに必要なものを自分なりに考えたり、本物らしく作ろうとしたりするなど、じっくりと取り組む。 ○自分の目的をもって、試したり、工夫したりする。	自分なりの力を発揮しようとする ○役割がわかり、自分なりの力を発揮しようとする。 ○学級の友達の姿を見て、自分なりに挑戦しようとする。	自分なりのめあてをもち、繰り返し取り組む ○自分なりのめあてをもち、繰り返し取り組む中で、試したり、工夫したりすることを楽しむ。 ○上手くないかいないことも、友達の姿を見て、自分なりにやってみようとする。	成長を喜び、自信をもつ ○自分の良さに気付く、自信をもったり、友達に認められる嬉しさを感じたりする。 ○繰り返し取り組んだり、諦めないで挑戦したりすることで、やり遂げた達成感を味わう。
ねらい😊😊	一緒に遊ぶ友達と思いや考えを、伝え合って遊ぶことを楽しむ ○いつも一緒に遊んでいる友達と、思いを伝え合い、イメージを共通にしようとする。 ○友達との思いの違いに気付いたり、折り合いがつかなくなったりすることを通して、葛藤していく。	友達と思いを伝え合って、遊びを進めていこうとする ○友達と思いを伝え合い、イメージを共通にしなが遊びを進めていこうとする。 ○遊び仲間との思いの違いに葛藤しながら、折り合いを付けていこうとする。	必要なことを自分たちで考え、遊びを進めていく充実感を味わう ○必要なものを考え、自分たちで用意しようとする。 ○友達の思いを認め、受け入れようとする。 ○同じチームの友達と考えを出し合ったり、力を合わせて取り組んだりする楽しさを味わう。	友達の思いを受け入れながら、共通の目的に向かっていく ○思いを相手に分かるように伝えたり、相手の思いを受け入れたりして、遊びを進める楽しさを味わう。 ○友達と目的やイメージを共通にし、役割を分担したり、力を合わせて取り組んだりする楽しさを味わう。	互いの良さを認め合う ○友達と試したり工夫したりする中で、互いの良さや頑張りを認め合いながら、自分たちで活動を進める充実感を味わう。 ○励まし合ったり、良さを認め合ったりしながら、学級の仲間として関わりを深める。
ポイント! 援助・環境	● 互いの思いが十分に伝わらない時は、教師も一緒に話し合い、言葉を知らせたり、代弁したりする。 ● 巧技台や大型積み木等、友達と一緒に遊ぶ必要のある遊具で遊べるようにする。	● 言葉や身振りで思いを伝えようとしている姿を十分に受け止めて、足りない部分を教師が補っていく。 ● 幼児の思いを受け止め、イメージに合った材料を幼児が選べるように用意する。	● ルールを共有した遊びを学級で取り組む中で、自分の力を発揮できるような活動を取り入れる。 ● 互いの頑張りを視覚化できるような教材を提示する。	● 友達同士で話し合えるような、共通の目的を提示し、仲間とのつながりを感じられるようにする。 ● 自分なりの課題に向かって取り組み、やり遂げた満足感を味わえる教材を用意する。	● これまで積み重ねた様々な経験を発揮できるように、十分に時間を確保する。 ● 幼児が生活、遊び、活動を自分たちで進めやすいように環境を整える。